

獨協大学国際教養学部言語文化学科所属 専任教員2014年度研究業績一覧

(2014年4月～2015年3月までに一般に公開された各専任教員の研究業績の一覧)

安間 一雄

学会発表

- ・ “Assessing test-taker’s ability level independently of the deployment of items in different difficulties: an application of logistic regression analysis.” 情報学研究所第19回研究会（獨協大学）2014年4月30日
- ・ “Assessing Absolute Proficiency Levels in Placement Tests with Predefined Item Difficulties.” Association Internationale de Linguistique Appliquée (Brisbane, Australia: Brisbane Convention & Exhibition Centre), 2014年8月14日
- ・ “Teaching content subjects in English: reflections on and towards globalisation.” 日英・英語教育学会第20回研究大会（東京：法政大学）[和泉伸一・中谷安男・ジョン＝スリヤとのシンポジウム], 2014年9月13日
- ・ 「偏層化抽出法のシミュレーションと実践」情報学研究所第19回ワークショップ（獨協大学）2015年1月7日

川村 肇

著書（共著）

- ・ 『識字と学びの社会史——日本におけるリテラシーの諸相』 大戸安弘・八鍬友広編著（思文閣出版、2014年10月、「明治初年の識字状況——和歌山県の事例を中心として——」309～345頁）

論文（単著）

- ・ 「生活指導と自由論——柏木実践をめぐる問題に寄せて——」（2014年8月『日本生活指導研究所紀要』第26号、12～16頁）
- ・ 「戦後教育改革とその後の変遷」（2014年5月、日本民主法律家協会『法と民主主義』No.488、12～17頁）

その他（単著）

- ・ 「大学の自治と学問の危機——大学の「今」の歴史的 위치について——」（2015年3月、『前衛』2015年4月号、166～177頁）

金 秀晶

論文

- ・「TV 예능오락프로그램 자막에 나타난 의성어・의태어 연구」(TV芸能娯楽番組の字幕に現れた韓国語オノマトベ研究)、獨協大学『外国語教育研究所紀要』第3号、獨協大学外国語教育研究所、2015年3月、17頁～33頁
- ・「韓国語文化基盤語彙としての擬声語・擬態語探索(1)－韓国伝来童話テキストを中心に－」、獨協大学『マテシス・ウニウエルサリス』第16巻第1号、獨協大学国際教養学部、2014年11月、57頁～73頁
- ・「한국어 교육을 위한 의성어・의태어 지도」(韓国語教育における擬声語・擬態語指導)、延世大学『言語事実と観点』第33集、延世大学言語情報研究院、2014年5月、169頁～190頁

口頭発表

- ・「한국어 문화기반어휘로서의 의성어・의태어 탐색-전래동화텍스트를 중심으로」(韓国語文化基盤語彙としての擬声語・擬態語探索－韓国伝来童話テキストを中心に)、韓国言語文化教育学会 第19回全国学術大会、延世大学、2014年11月

その他

- ・「한국어교육학사전」(韓国語教育学辞典)、ソウル大学外国語教育研究所編、図書出版夏雨、2014年9月、615頁～617頁 620頁～626頁

呉 浩東

論文

- ・「複数の情報源から答えを抽出する質問応答技術」『マテシス・ウニウエルサリス』、第16巻第1号、獨協大学国際教養学部、2015年3月、47頁～55頁

田口 雅徳

著書(分担執筆)

- ・『21世紀の学びを創る：学習開発学の展開』 森敏昭監修、藤江康彦・白川佳子・清水益治編著(「第5章1節2 家庭環境・保護者」、北大路書房、50～58頁)、2015年5月

論文(単著)

- ・「パーソナリティ特性からみた大学生の食行動の特徴」『カウンセリング・センター年報』第35号(獨協大学カウンセリング・センター)、2015年6月、

18～28頁

論文（共著）

- ・「大学生における性格5因子と観光動機との関連」『カウンセリング・センター年報』第35号（獨協大学カウンセリング・センター）、2015年6月、8～17頁

口頭発表

- ・「The influence of a sleeping habit on emotional and behavioural problems among Japanese preschool children」24th European Early Childhood Education Research Association Conference (Crete, Greece)、2014年9月
- ・「菱形および五角形の一筆描き課題における描線動作の発達：日本の幼児・児童を対象とした分析」日本教育心理学会第56回大会（神戸大学）、2014年11月
- ・「円および三角形の一筆描き課題における描線動作の発達：日本の幼児・児童を対象とした予備的検討」日本発達心理学会第26回大会（東京大学）、2015年3月

佐藤 勘治

論文

- ・「旧スペイン領非スペイン系住民によるスペイン語姓名の受容」『マテシス・ウニウエルサリス』第16巻第2号、2015年3月

口頭発表

- ・「姓名とエスニシティ：スペイン語圏」獨協大学創立50周年記念国際シンポジウム「姓名とエスニシティ」2014年7月獨協大学

二宮 哲

学会発表

- ・“[el / al] día siguiente”、東京スペイン語学研究会、2015年2月

講演

- ・獨協大学創立50周年記念シンポジウム「複言語教育の現在と未来」コーディネート、2014年9月

野澤 聡

学会発表

- ・「問題と解法の継承関係から見た18世紀前半の力学研究—ヨハン・ベルヌーイを中心に」日本科学史学会第61回年会、酪農学園大学（札幌市）、2014年5月25日

野原ゆかり

著書

- ・『日本語非母語話者の話し言葉に対する母語話者評価の研究—日本語教育における評価のあり方を問い直す—』風間書房、2014年11月

口頭発表

- ・「『日本語を教えない』短期留学プログラムにおける参加者の学び—ボランティアで参加した日本人学生のインタビューから—」第8回日本語教育学会研究集会東北地区、盛岡大学、2014年11月15日

松丸 壽雄

論文

- ・「田邊とハイデgger——死をめぐる論争」、獨協大学国際教養学部言語文化学科紀要『マテシス・ウニウエルサリス』第16巻第2号、平成27年3月31日
- ・‘O pensamento de Nishitani e o Budismo, in: “Budismo e Filosofia em diálogo” (Antonio Florentino Neto e Oswaldo Giacoia Jr. Orgs.), Campinas, SP: Editora PHI, 2014.

山本 英政

論文

- ・「ジラード事件」追考3—裁判権をめぐる—『Mathesis Universalis』Vol16, No. 1 獨協大学国際教養学部 2014年11月29日 PP.1-28.
- ・「ジラード事件」追考4—判決と反応—『Mathesis Universalis』Vol16, No. 2 獨協大学国際教養学部 2015年3月31日 PP.1-30.

依田 珠江

翻訳（共著）

- ・『リカバリーの科学 スポーツパフォーマンス向上のための最新情報』長谷川博・山本利春監訳（「第9章 睡眠」107～119頁・「第15章 性差」215～229頁、ナッパ、2014年9月15日）

論文（共著）

- ・「障害者の運動・スポーツプログラム作成に関する実証的研究：肢体不自由特別支援学校における活動実態に着目して」（『SSFスポーツ政策研究』3巻第1号、220～229頁、笹川スポーツ財団、2014年）
- ・「環境ストレス時（絶食、温熱負荷）の生物時計による体温調節修飾メカニズムの解析」（『人間科学研究』26巻第2号、213～214頁、早稲田大学人間科学学術院、2013年9月30日）

研究ノート（共著）

- ・「座談会：スキースキーの指導について」（『スポーツ科学研究』、11巻、131～145頁、早稲田大学スポーツ科学学術院、2014年）